

日本原子力学会核燃料部会 平成20年度第三回運営委員会議事録

日時 : 平成20年9月5日(金)10:30~11:50
場所 : 高知工科大学 教育研究棟A A112
出席者 : (順不同 敬称略)

岩田部会長、安部田副部会長、阿部委員、伊東委員、今村委員、大平委員、木下委員、佐藤正知委員、佐藤宣明委員、杉崎委員、原田委員、更田委員、三島委員、森山委員、山脇委員、若松委員、荒川氏(高島委員代理)、高野氏(三菱重工)

議事

1. 前回運営委員会議事録案確認

阿部委員から、資料No.1に基づき、前回運営委員会の議事録案が提示され、了承された。

2. 総会配布資料の確認

阿部委員から、資料No.2(第31回核燃料部会会員総会配布資料)が提示された。会報第44-2号の発行予定時期について誤記(平成21年であるべきところ平成20年だった)があったことから、総会にて口頭修正することです承された。

3. 平成20年度予算途中報告および平成21年度予算案の確認

阿部委員から、資料No.3に基づき、平成20年度予算途中報告及び平成21年度予算案が提示され、了承された。

学会事務局より、10月27日期限で平成20年度収支見通し報告依頼があることから、今回報告した平成20年度予算途中報告をベースに指定の書式に埋め込み学会事務局に提出すること、提出前にメールベースで運営委員の確認を受けることとなった。

4. 平成21年「春の年会」企画セッションについて

「春の年会」企画セッションについて以下の議論があった。

・日韓セミナーについて、目的の絞込みや開催頻度、テーマを見直してはという話がある。運営について定めた協定文書があるはず。必要であれば協定文書を見直せばよい。

・材料、燃料、水化学が各々の思いで活動しているが、連携し、若い人を巻き込む作戦を考える必要がある。学生が付いているところ(原子炉材料)を軸に、学生に近づくというアプローチ、例えば3部会合同にして材料の学生を集めて燃料の話聞かせる、もある。

・大学内でも学科再編(原子力、環境は教養に入れ等)の話がある。現状から理想状態への変革に向けた作戦を立てなければならない。古い教科書は旧来の分野分けに従っている。多様性が増す中で全体としての軸がぼけるので、教科書の問題に取り組もうという計画がある。次回運営委員会で長期計画のたたき台を作る議論をしたい。核燃料工学の学問分野の再構築をする位の積りで作業をする。

・お付き合いの企画セッションでなくシリアスな企画セッションにしたい。学会に連絡しスケジュール(企画提案の期限)を確認する。また、学会のあり方についての岩田先生原稿(今週末)も参考に企画セッションの内容について考えることとなった。

5. 平成20年度夏期セミナー報告

更田委員から、資料No.5に基づき、平成20年度夏期セミナーについて、収支報告、アンケート集約結果等を中心に報告があった。

6. 平成21年度夏期セミナー準備状況について

安部田副部会長から、資料No.6-1(1)に基づき、材料、水化学、核燃料部会が共催する3部会合同夏期セミナー運営に関する申し合わせ内容が紹介された。また、併せて水化学部会から資料No.6-1(2)の通りの意見を受けていることが紹介された。平成21年度開催の夏期セミナーについて、以下の議論があり、年内には大卒、春年会時には公演内容等について3部会了解を得ること、大卒について12月上旬予定の次回運営委員会での承認を目途とすることが確認された。

- ・水が入ったセミナーということで軽水炉フォーカスのセミナーになる。100人規模(120人程度予想)を想定しているが、この規模を収容可能な温泉を探せるかが課題である。
- ・プログラムの大枠(時期、場所)については、7月第1週あるいは2週、場所は東北、北海道あるいは松江を検討中である。施設見学は、東北なら下北再処理施設、イーター、松江ならABWRで建設中の島根3号機等が考えられる。
- ・学生の参加を求めるならば7月は授業、試験があるため8月にする必要がある。
- ・初日に、燃料、材料、水化学の各々の基礎的講座(構造材、燃料ふるまいのような)をし、翌日、境界領域について今後も含め講座を設ける、別々のプログラムでなく一体となった軽水炉セミナーのような形もある。

7. 部会報(No.44)の企画立案状況について

- ・若松委員から資料No.7-1、7-2に基づき、平成20年度部会報の企画立案状況として、夏版については現在現行待ちの3件の原稿がそろい次第発行予定であること、冬版については執筆者を選定中であり自薦他薦をメールにてお願いする旨の紹介があった。
- ・「後輩に物申す」については、この題では書きづらいとの意見があり(かつても同様の意見あり)、必要であれば、「後輩に伝えること」等、見直すこととなった。

8. 「燃料高度化ロードマップ」実行委員会運営費用について

- ・阿部委員から資料No.8に基づき、核燃料部会下設置の「燃料高度化ロードマップ」事項委員会の運営資金を関連組織から核燃料部会宛の賛助を募り賄うことが、前回運営委員会に引き続き提案された。
- ・透明性に留意することを条件に了解された。今後は予算変更案を作成し、学会に申請、承認を求めるタイミングで、メールベースで運営委員の了解を得ることとなった。

9. その他

- ・木下委員からソウルにて開催されるWRFPM2008のPlenaryセッションでの講演内容について、その考え方の紹介があった。
- ・山脇委員から資料No.9-1(1)に基づき、「先進的原子力システムにおける燃料・材料」研究専門委員会の状況について紹介があった。また、No.9-1(2)に基づき、次回同委員会にてIAEAガンگریー部長による講演を核燃料部会との共催にて実施すること、核燃料部会員の参加が可能であることが紹介された。IAEAガンگریー部長による講演については、後日、核燃料部会メーリングリストにて部会員への周知を図ることとした。
- ・三菱重工より高野氏を運営委員として補充(副部長サポート)することが安部田副部長から提案され、了承された。
- ・安部田副部長より、プログラム編成委員について退任される若林先生の後任を選出し、今月末学会に連絡が必要なことが紹介された。岩田部長、安部田副部長にて相談し、候補者を決めお願いすることとなった。
- ・次回運営委員会は、日程調整のうえ、12月上旬を目途に開催(東京)することとなった。

以上

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

[過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)